報道関係者各位

2026 年 3 月11日
食生活ジャーナリストの会

第 10 回「食生活ジャーナリスト大賞」受賞者決定

大賞：荻野恭子氏　特別賞：松﨑淳子氏

食生活ジャーナリストの会（JFJ・代表幹事 畑中三応子、会員数 125 人）は、第 10 回「食生活ジャーナリスト大賞」（2025 年度）の受賞者を厳正なる審査により決定しました。

「食生活ジャーナリスト大賞」は食に関する情報発信や食文化（食育、料理、調理、地場産業の振興、食文化の継承など）の分野において、すぐれた活動や業績を残している個人または団体を顕彰するもので、2016 年に創設されました。
第 10 回「食生活ジャーナリスト大賞」および「食生活ジャーナリスト大賞・特別賞」の受賞者詳細については別紙をご参照ください。

なお、授賞式は 3 月 31 日（火）19 時より日比谷図書文化館 4 F スタジオプラス小ホールにて開催いたします。ご多用のこととは存じますが、ぜひ取材いただきたくお願いいたします。授賞式は会場＋オンライン（Zoom）のハイブリッドで配信いたします。

◆第 10 回「食生活ジャーナリスト大賞」授賞式 参加申込フォーム
https://forms.gle/qbZr1nQqRxKrXWwx9

詳細は JFJ ホームページをご参照ください
https://www.jfj-net.com/

＜本リリースに関する問い合わせ先＞
食生活ジャーナリストの会（JFJ）事務局：info@jfj-net.com
担当：山崎 毅（090-3527-0273）

別紙

◆第 10 回食生活ジャーナリスト大賞受賞者◆

●食生活ジャーナリスト大賞●

荻野恭子（おぎの・きょうこ）氏

料理研究家／栄養士

受賞理由：料理研究家として、50 年に及ぶ世界 70 カ国以上の現地家庭料理取材、レシピへの落とし込み、地政学的な料理の広がりや繋がりの解釈を踏まえて家庭の食文化を広め続けた活動に対して。

講評：1974 年より半世紀以上にわたって、中国全省、旧ソビエト連邦 15 カ国をはじめとするユーラシア大陸全土を訪れ、現地の家庭の台所や遊牧民を訪ね、地政学的・歴史的・宗教的つながりを、家庭料理という生活文化を通じて記録してきた。ここまでの広範囲かつ長期間にわたり、国を超えた料理の繋がりを具体的な調理法や歴史的考察も踏まえ捉えた活動は他に類をみない。

プロフィール：料理研究家・栄養士。女子栄養大学短期大学卒業。1974 年よりアジア、アフリカ、中南米に至るまで、70 カ国以上を訪れ、各地の家庭の台所を取材。現在は宗教と祭事食をテーマに旅を続けている。著書 50 冊以上。2025 年に世界の食生活文化研究 50 年の節目として『荻野恭子のシルクロードぐるり旅　世界の粉物とスパイス料理』（朝日新聞出版）を上梓。

●食生活ジャーナリスト大賞・特別賞●

松﨑淳子（まつざき・あつこ）氏

土佐伝統食研究会代表／高知女子大学 名誉教授

受賞理由：教育者としての長年にわたる実績に加え、地域食文化を言語化し、出版物として後世に残してきた功績に対して。

講評：単に郷土料理を紹介するにとどまらず、生活文化としての食を丁寧に記録し、語りと執筆を通して発信し続けてきた。その影響は高知県内にとどまらず、全国に広がる教え子や薫陶を受けた後進たちに受け継がれている。満 100 歳を迎えられる本年、日本の地域食文化の継承者として、今なお現役で活動を続ける稀有な存在である。

プロフィール：1926 年生まれ。高知県出身。高知女子大学（現・高知県立大学）にて調理学および実習などを担当し、教授を経て名誉教授。退職後も、2003 年に発足した土佐伝統食研究会の代表として、高知の郷土食の保存・伝承に尽力されている。教育・執筆・講演活動を通じて、地域食文化の価値を広く発信し続けている。近著に『伝えたい！昭和の食卓 高知の味』、『まっことめでたい 96 歳 私の「昭和、平成、令和」覚え書』(飛鳥出版室)がある。

以上